140.高齢者急性腹症の臨床的特徴と予後の検討

研究の概要

本邦では平均余命の延長と高齢者人口の増加に伴い、高齢者の急性腹症に対する手術症例が増加しています。高齢者は併存症や主要臓器機能の低下のため、標準治療を受けることが困難な場合も多いのですが、高齢者の急性腹症に対する治療指針が少ないのが現状です。高齢者の急性腹症の臨床的特徴や手術の転帰を明らかにすることは重要であると考えられます。

研究の目的と方法

本研究では、2008年4月1日～2022年3月31日に国立病院機構熊本医療センター外科で急性腹症に対して手術を受けた患者さまを対象としています。日常診療で得られたデータ(年齢、性別、検査内容、検査値、最終診断、治療状況、転席など)を電子カルテから集計いたします。

本研究の参加について

これにより、患者さまに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。ご自身のデータを本事前に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせまでご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することはなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者(患者さま)の個人情報（氏名、住所、電話番号、カルテ番号など)は、記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

調査期間

研究期間:2017年4月1日～2024年3月31日〈調査対象期間:2008年4月～2022年3月)

研究成果の発表

調査した患者さまのデータは、集団として分析し、学会や学術論文で発表いたします。また、個々の患者さまのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター　統括診療部長　宮成信友

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター　統括診療部長　宮成信友

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター　外科医師　小澄敬祐
電話：096-353-6501（代表）